

プレスリリース

王舒野 個展『認識以前の絶対的知覚次元へ』

2023年4月8日（土） - 5月20日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第四秀和ビル7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

この度、東京画廊+BTAP では王舒野（ワン・シュウイエ）個展『認識以前の絶対的知覚次元へ』を開催いたします。東京画廊+BTAP（東京）での2回目の個展となる本展では、〈時空ヌード・即〉シリーズの新作9点を発表いたします。

王舒野は1963年中国黒龍江省生まれ。1989年に北京の中央工芸美術学院（現・清華大学美術学院）を卒業後1990年に来日するも、2001年の個展開催に至るまでの10年間作品発表を行わず、芸術の精神的探求に日々没頭します。2001年の鎌倉での個展開催を皮切りに、主に東京と鎌倉で作品を発表し、2009年には池田20世紀美術館で回顧展『肯定の目光に・王舒野の世界展』を行います。2017年から中国の最先端アートシーンの中心をなす北京の798芸術区にアトリエを構え、現在、鎌倉と北京を両拠点に強靱な探求心に導かれた作品制作を続けています。

王は90年代初頭から「認識以前の絶対的知覚次元」をめぐって、絵画の新たな視覚空間の可能性を探求し続けてきました。作品は主に油彩や墨を用いて、無数の筆触とストロークの集積によって深遠で静謐な景観を現出させます。その視覚空間は認識の対象として捉えられる以前の世界そのものであり、既存の人間の価値観の拘束から視覚を解放するのです。「見る」という観念と行為を解体し、人間のあらゆる知識や感情を不純物として取り除き、改めて私たちの目の前に「見る」ことを新たに提示します。

本展で展示する新作は、銀座の街が描かれています。王は私たちがよく知る事物を敢えて題材に取り上げて、認識からの離脱を試みます。鑑賞者はつい先ほど見た街の風景を、日常と異なる知覚次元で体験することになります。本作では、対象としての認識につながりがちな多彩色に挑戦し、都会に特徴的な直線的要素を取り入れるなど、王の新たな試みを見ることができます。

絵画の新たな可能性を示す、王の芸術世界を是非この機会にご体感ください。

「アーティストコメント」

世界が人間の認識に規定される対象である以上、我々の見る世界は人間自身を反映するものに他ならない。決して世界のそれ以外の異なる真実に触れえない。私にとって、日常の相対的な認識意識を放棄し、認識以前の絶対的知覚次元を体験・表現する時は、すなわち日常の自我とその世界観を超越する時であり、その世界観に遮蔽された世界の別の姿に触れる時である。そこでは、世界の個別的な事物に指向せず、世界全体に指向する——世界の開放状態そのものの姿がある。それこそ知覚の原初状態である。その姿の中には、「世界本来の永遠無限と自安自足」が随所に現れている。私は、このような体験を通して、自己の立場に縛られている知覚の、えもしれぬ根本的な欠乏感から自分を解放し、真のやすらぎの瞬間を得るのだ。



＜時空ヌード・即 (165)＞ (2023) 油彩、キャンバス、130.3 × 193.9 cm



＜時空ヌード・即 (163)＞ (2023) 油彩、キャンバス、193.9 × 130.3 cm



＜時空ヌード・即 (166)＞ (2023) 油彩、キャンバス、130.3 × 193.9 cm

プレス問い合わせ e-mail: info@tokyo-gallery.com

開廊時間 | (火-土) 12:00-18:00
休廊日 | 日、月、祝

東京画廊+BTAP | 東京
〒104-0061 東京都中央区銀座8-10-5 第4秀和ビル7階
TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689
www.tokyo-gallery.com